

## グーグルマップ3D



グーグルマップは仕事でも地図を見たり、道順を見たりするのにパソコンなどで良く見えます。最近では、このグーグルマップが立体的な3D画像となり、今では広島から大竹市の本社辺りまで3Dで見れるようになってきました。左の写真がその写真ですが、GEINANHOUSEがなんと読み取れるほどの解像度となっています。ですので、屋根や外壁のリフォームのご相談をいただいた時は、事前にその形など確認することができとても便利です。

こうなると、もっと分かり易くて便利な物はないかと思ひようになり、そろそろドローンを使って屋根の点検に取り組もうかと思案中です！



### \*\*近況報告\*\*いきいき学級（宮園市民センター）より

毎年6月に廿日市店のある宮園市民センターの生涯学習活動のひとつ、月に一度行われている“いきいき学級”の講師を担当させていただいております。

今年のテーマは「住まいのメンテナンス」特に今回はこの時期から必要になる“網戸”の張り替えを実演講習を行うこととしましたら、何と40人とこれまでにない程のたくさんの地域の方にお越しいただき、担当した宮本店長はもとより市民センターの職員の方もビックリ！

網戸の張り替えの講師をした太田君は、たくさんの人に囲まれて実演するのは初めてなのでさぞかし緊張したと思いますが、地域の方が知りたいことを告知すればたくさんの方に集まってくれたことが分かりましたので、来年は何をやるか検討するのが楽しみになってきました。来年の2月は原市民センターからも依頼されてますので、二人に頑張ってもらいましょう！（啓）



### <弱り目に祟り目>

大変恥ずかしい話で恐縮ですが、5月連休に家の近くの海岸で以前アサリが取れると親せきのおばさんが言っていたことを思い出して、孫たちが喜ぶかなと一人で“ちょっと見てみるか”と行ってみました。すると、以前は海岸に降りる降り口があったのですが、コンクリートでつぶされていて岸壁の上から降りなくてはなりません。とは言え高さがそうあるわけでもなかったため、一段踊り場に降りて海岸に降りればいかなと軽い気持ちで一段飛び降りたところ案定バランスを崩し海岸に落下。落ちる時に右手が岸壁のフジツボなどに当たり半袖だったので傷だらけとなってしまいました。幸いにも頭は軽く打った程度で済んだのですが、右手の血がだらだらと止まらないため、休日診療所に行き9針縫われてしまいました。以後、7月に入っても傷が癒えず、この調子で行くと全治3か月・・・と情けない思いをしていたら右足中指に違和感。翌日の朝には違和感から痛みへと進化し、中指も赤く腫れ上がっていました。病名は先代から大事に引き継いでいる“痛風”です。まさに“弱り目に祟り目”言葉を変えると、“泣き面に蜂”もう一つ“踏んだり蹴ったり”となってしまいました。

家内からは一人で海岸に行くという行動自体異常だと決めつけられ、今後は食生活だけでなく、行動まで監視の目が厳しくなるようです。（啓）



「住いの困った」は ゲインンハウス 大竹店・廿日市店共に  
フリーダイヤル0120-505-375 URL:http://www.geinan-house.co.jp/  
最後までお読みいただき有難うございました、次回は10月～11月の予定です。（啓）  
\*尚、この「住みいる通信」がご不要の方はご一報願います。送付を停止いたします。



## 住みいる通信

H30.8

新町川



みなさんこんにちは！さる7月7日の豪雨では県内でも多くの方が亡くなるなど甚大な被害に見舞われ、被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。この通信をお送りしている多くの方々は広島市以西に住まわれているので、激しい雨は降ったものの人命にかかわるようなことはなかったようですが、皆さんお変わりございませんでしょうか？

さて、上の図は今回の土石流による災害からテレビなどで「ハザードマップ」で自分の住んでいる場所の危険性を確認してください」と言われているもので、この画像は大竹市のホームページからダウンロードした「ハザードマップ」です。この「ハザードマップ」とは、一般的に「自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図」とされています。さすがお役所少々長ったらしい説明ですが、要するにこの地域が危険で、どこに避難したらよいかを記載した地図と言うことです。（裏面にハザードマップについて書きましたのでご一読ください。）

そこで、上のハザードマップは本社のあるエリアで、チョット分かりにくいですが、見てみると本社の裏にはオレンジの線で囲まれた黄色の“土砂災害警戒区域”があることが分かります。すぐ近所の我が家はこの“土砂災害警戒区域”内にありますので、大変危険なところに住んでいることが分かりました。実は、我が家の裏の斜面は危険な急傾斜地として平成9年に指定され、法面をコンクリートで対策する工事してもらっています。ですので、今回の雨でも「大丈夫じゃろう！」と高をくくっていましたが、今回の土砂災害の90%はこのハザードマップで示されている地域と聞き、次回避難勧告が出たら早々に避難しなくてはと少々反省しております。

倉敷市真備地区の冠水被害においても男性は「まだせわない！」と動かないのに対して女性は「恐ろしいけえ早う逃げよう！」と避難したことで、男性の被害が多かったと聞きました。私もそうですが男性は“慌てず騒がず”を美德のように思っている節がありますが、このような非常事態ではそんな役にも立たない美德は捨てて、素直に女性の言うことを聞いた方が命が助かるということがよく分かりました。

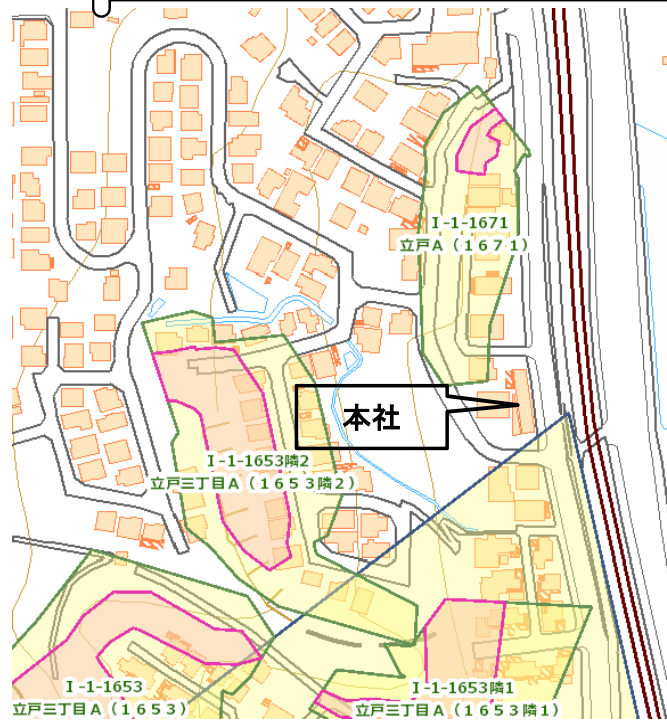
日常生活もそうですが、何にしても女性の言うことの方が正しいと言うことは確かなようです。（啓）



河野



## 知っておきたい！土砂・浸水ハザードマップについて



冒頭でハザードマップの事について書きましたが、ここではこのハザードマップの見方などについて書かせていただきます。

まず、このハザードマップの入手方法ですが、印刷したものは各市町村で手に入れることができますので、市役所でお問い合わせください。さらに、この左の図は広島県の「土砂災害ポータル広島」というサイトから引用したもので、冒頭の市のホームページからダウンロードした図よりも詳しく鮮明に見ることができます。さて、この土砂災害ハザードマップから何が分かるかと言うと

- ①土石流②急傾斜地③地すべりの危険性について、“警戒区域”とさらに危険性の高い“特別警戒区域”を示しています。

この警戒区域と特別警戒区域の違いですが、解説によると

- ・警戒区域：土砂災害のおそれがある区域
- ・特別警戒区域：建物が破壊され、人命に大きな被害が生ずるおそれがある区域。と言うことで、特別警戒区域は非常に危険性の高い区域であることがわかります。

上の図の中には急傾斜地の危険性を示す警戒地域が緑の線の中で黄色で示されている部分、さらに特別警戒区域はその黄色のエリアの中で赤い線で囲まれたピンクで示された部分となります。ですので、本社裏に警戒区域があり、その北の部分に狭いエリアですが特別警戒区域があります。この部分は斜面の対策工事がされていないため特別警戒区域となっているようで、近隣の住民の方も地区で集まった折に話題にもなっているエリアです。いずれにしても豪雨の際には気を付けなくてはなりません。

今回は土砂・浸水ハザードマップについて書かせていただきましたが、ハザードマップには“地震”・“津波”などのハザードマップもありますので、今回を機会に一度確認して見られたらいかがでしょうか？（啓）

## 浄土真宗西と東の仏壇の違い



左：西本願寺派 右：東本願寺派

最近、押入を仏間にリフォームして欲しいとの依頼をちょくちょく受けています。先日、完工検査にお邪魔すると、ご実家から持ってきた仏壇が仏間に収まっていて、ご主人が修理を依頼した仏具屋さんから浄土真宗の西と東で仏壇が違うと言う話を聞いたと話してくれました。

我が家は西ですので、見慣れた仏壇を思い出しつつ聞きましたが、その場で聞いてもさっぱり分かりませんでしたので、ネットで調べてみると見比べられるような左の写真がありました。さて、大きな違いは

- ①左右の柱と奥の柱が西は金箔で東は黒塗り
- ②3具足(花立・香炉・燭台)が柱とは逆に、西は黒塗り東は金箔
- ③この写真からは見えないところですが、上部の屋根が西は一重東は二重④この写真では東しかありませんが、チーンとならず鈴台が西は六角形で東は四角形だそうです。

他にも飾り物の違いなどあるようですが、仏壇をパッと見た雰囲気は西の方がきらびやかということでしょうか。元は同じなのに仏壇まで違ってくるとは長い時間を感じさせてくれます。（啓）

## Uターンを機に 実家を使い勝手のいい暖かな住まいに！

今回の施工事例は、定年を迎えUターンを機に実家を大規模にリフォームした事例です。施主のY様は私の同級生で、中学生のころ互いの家に遊びに行ったりした仲でもあります。Y様は東京などで勤務され、マンション住まいを長らくされていたため、使い勝手もさることながら純和風建築のご実家の冬の寒さを何とかしたいと思っておられました。そこで今回のリフォームでは、生活の中心となるLDKと水回りをまとめ、このゾーンを重点的に断熱改修を行いました。また、お母様の寝室も同様に断熱改修を行いトイレを隣接した計画としています。

着工前(和室)



木工事状況  
(左)筋交いを耐震診断に基づいて補強  
(上)壁面は内面にボード状の断熱材を施工

LDKとなる10畳の応接間・和室を解体したところ、壁は木舞に土塗の真壁構造。計画していたガラスウールを所定の厚みで入れることができないため、より性能の高いボード状の断熱材50mmを下地を組んで施工しましたことで、新省エネ基準まで断熱性能を上げています。勿論施工エリアの窓等は複層ガラスの断熱サッシを採用しています。

構造については建築時の図面はありましたが、筋交いなどの配置が異なっていたため、再度耐震診断を行い筋交いや構造用合板で補強を行っています。

完成



LDK(上の着工前の和室の写真と同じアングルです)



キッチンからリビングを見る



サーモカメラによる  
床暖房



広々浴室



2階トイレ  
奥様のこだわりで  
高級レストランの  
トイレのようです



施工前



施工後

紙面の関係で写真をたくさん載せれないのが残念ですが、1階のLDK・水廻りの他にもお母様の寝室、ご夫婦の生活スペースとなる2階部分を施工させていただきました。やはりこれだけ大規模な改修となると生活をしながらの施工ですので、部位ごと3期に分けて進めさせていただき、工期も延べ半年にも及びました。完工後奥様から「もう誰も来なくなるかと思うと寂しいですね」と言っていたいただきましたが、施工中は何かとご負担も多く大変だったのでと推察いたします。

1期工事のLDKが使えるようになったのが2月の丁度寒波の時でしたので、床暖房の暖かさを実感していただくことができ床暖房を勧めた私も喜んだ次第です。広島に居られる娘さんご家族が集まりやすく、笑いの絶えない住まいになれば幸いです。（啓）